第１１回 平取ダム地域文化保全対策検討会

議　事　要　旨

日　時：平成２２年６月２８日（月）

場　所：ふれあいセンターびらとり

北海道開発局室蘭開発建設部

沙流川ダム建設事業所

第１１回平取ダム地域文化保全対策検討会　議事要旨

日　　時：平成２２年６月２８日（月）15：00～17：00
場　　所：ふれあいセンターびらとり　多目的集会室
出 席 者：辻　井　達　一　財団法人北海道環境財団理事長〔座長〕
萱　野　志　朗　北海道アイヌ協会平取支部副支部長
川奈野　栄子　北海道アイヌ協会平取支部副支部長
木幡　サチ子　北海道アイヌ協会平取支部／平取アイヌ文化保存会理事
木　村　英　彦　北海道アイヌ協会平取支部支部長
斉　藤　憲　章　平取町教育委員会教育長
千　葉　良　則　平取町議会総務文教常任委員会委員長
常　本　照　樹　北海道大学大学院法学研究科教授
鍋　澤　　保　北海道アイヌ協会平取支部副支部長
西　島　達　夫　北海道アイヌ協会平取支部副支部長
藤　澤　佳　宏　平取町議会議長

配布資料：第１１回平取ダム地域文化保全対策検討会　次第
資料－１　平取ダム地域文化保全対策検討会設置要領（案）
資料－２　地域文化に係る調査・検討について
参考資料－１，２　地域文化調査の概要について

議　　事：１．開　　会
２．挨　　拶
３．平取ダム地域文化保全対策検討会設置要領（案）について　【資料－１】
４．審　　議
地域文化に係る調査・検討について　【資料－２】
５．報告事項
地域文化調査の概要について　【参考資料－１、２】
６．そ の 他
７．閉　　会

１．開　会

事務局：それでは定刻になりましたので、ただ今より第１１回平取ダム地域文化保全対策検討会を開催いたします。議題に入るまで司会を務めさせて頂きます沙流川ダム建設事業所の一法師と申します。宜しくお願いします。始めに、沙流川ダム建設事業所長の井田より挨拶をいたします。

２．挨　拶

井田所長：皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、また暑い中お集まり頂きましてありがとうございます。暑いと申しますと今日は１３時時点、山日高で３１度、近くの新和で２９度ということでほぼ真夏日という状況になっています。一方でご案内のように春先は低温が続きまして、降雨も激しくなっているというデータもあります。気温の変化も激しいなと感じます。道内の作物も遅れを取り戻している状況で安心しています。本年も豊穣の秋を迎えられたらなと思っています。

本題の平取ダムの予定地の文化保全という重要な調査検討については、平成１８年度から進めてきているところで、平成２１年度も様々な調査を現地、聞き取りなどで記録の保全、場の保全、行為の保全という形で行ってきています。その成果を報告しまして、それらを踏まえまだ議論が不足しているところ、充実しなければならない箇所が見えてきましたので、それについて平成２２年度に取り組むよう始めたところです。それについても報告いたします。委員の皆様におかれましては、文化保全にあたっての昨年度の調査の報告、それを踏まえた今年の取り組みについてご審議頂き、私達もそれらの意見を反映させてより良い文化の保全対策にするよう進めてまいりたいと思います。本日は活発な議論をお願いしたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

３．平取ダム地域文化保全対策検討会設置要領（案）について

事務局：それでは一つ目の議題、「３．平取ダム地域文化保全対策検討会設置要領（案）について」に入ります。ご発言の際はお手元のマイクをお使い頂くようお願いいたします。

資料―１をご覧下さい。主な変更点をご説明します。第３条の検討会の構成について一部変更があります。資料裏面に別紙１として今年度の検討会委員名簿を掲載していますのでご覧下さい。委員については今年４月の北海道アイヌ協会平取支部の役員改正に伴い、新たに副支部長になられた萱野志朗副支部長、川奈野栄子副支部長が検討会委員に加わりましたことを報告いたします。委員の期間は、平成２３年３月３１日までとしています。本日、所用により川上委員がご欠席です。川上委員には事前に説明を行い、意見も合わせて伺っていますので、後ほど事務局より報告いたします。今説明しました検討会設置要領（案）について委員の方々からご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

（委員　異議無し）

事務局：それでは資料―１の設置要領（案）で宜しいでしょうか。

（委員　異議無し）

事務局：ありがとうございました。それでは本日より（案）をとりまして本検討会の設置要領といたします。続きまして座長の選出に移ります。検討会の座長は、検討会設置要領第４条の（２）において「座長は、委員が互選する。」と定められています。つきましては委員の皆様から座長のご推薦、自薦を頂きたいと思います。いかがでしょうか。

●：引き続き辻井先生にお願い出来ればと、推薦します。

事務局：只今、辻井先生のご推薦を頂きました。他にご推薦、自薦はありますか。それでは辻井委員に座長をお願いするということで宜しいでしょうか。

（委員　異議無し）

事務局：それでは委員の皆様のご賛同を頂きまして辻井委員に座長をお願いしたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

辻井委員は座長席の方へ移動をお願いいたします。それでは座長にご就任頂きました辻井委員にご挨拶を頂戴したいと思いますので、宜しくお願いいたします。

座　長：ご推挙を頂きましたのでお引き受けいたします。宜しくお願いいたします。暑いというお話がありましたが、暑いというのは稲をはじめ農作物に極めて重要な、必要なことであると思います。遅ればせながらスタートしたと考えるべきかもしれません。私も暑がりで今日も札幌から来るときにもかなり堪えました。そんな中での議論ということになりますが、宜しくお願いいたします。

続けて議題に入ります。大まかなスケジュールですが、最初にこれまでの地域文化に係る調査・検討について審議をして頂いて、その次に報告事項として具体的な地域文化調査の報告があります。早速ですが、審議事項として地域文化に係る調査・検討について事務局より説明をお願いします。宜しくお願いします。

４．審　議　　地域文化に係る調査・検討について

＊事務局より、資料―２　地域文化に係る調査・検討について説明

事務局：今の説明の内容については、事前に川上委員にも説明しまして、ご意見を頂いていますので、その内容について事務局よりご報告いたします。

「地域文化の保全対策については、これまで通りアイヌ協会との協力関係の中でしっかりと進めていただきたい。平取ダムについては今後の治水対策のあり方に関する有識者会議の中間とりまとめを受けて検証される中、平取町民として災害に強い町づくりのために必要であり、そのような地域の声を町として訴えて参りたい。そのためにもアイヌ文化の保全対策については精神文化や有用植物のモニタリング調査等地域にとって重要な調査を十分に行っていただきたい。」以上

です。

座　長：どうもありがとうございました。今、事務局より説明のあった地域文化に係る調査・検討について委員の方からご質問等はございませんか。

私から伺いたいことが。今年度調査をしないところと、文化景観のところについては、例えばアイヌ地名で表記するということはほとんど完成したということですか。

事務局：今後また更新していく必要はあると考えていますが、今年度についてはデータベースの更新を時間をかけて行う予定はありません。

座　長：調査室からお話があるかもしれないが、データとしてはいいところまでまとまっているということでいいですか。

調査室：調査を担当していますので、お答えします。地名のデータベースは平取ダム建設予定地を中心に額平川周辺については既存データ集としておさえています。本当のところどういう意味の地名であり、地形との関係等についてはどうか言うと、そこまで踏み込んでの研究というのは十分やっていません。データを揃えたまでの段階です。流域の文化特性、命名には地域の癖の様なものがあると思います。流域全体あるいは他と比較して検証していくといった作業は残っていると思います。

座　長：分かりました。ありがとうございました。いかがでしょうか。ほかに質問がありましたら、調査室の説明の後で、その時にお願いします。

次の報告事項、地域文化調査の概要について、平取町アイヌ文化振興対策推進室よりご報告をお願いします。

５．報告事項　　地域文化調査の概要について

＊調査室作業主任（以下、作業主任）並びに調査室各担当者より、参考資料―１，２「地域文化調査の概要について」について説明（プロジェクター使用）

作業主任：各業務分野からの報告がありました。何点か今年度の調査にあたってどのようなことを重点として考えているかについて説明させていただきます。今年度で調査は８年目を迎えて、かなり深まりをみせております。今は大事な節目にあるということで、共通の目標として深める・高める・広めるという標語を掲げて調査を進めています。深めることの意味はアイヌ文化への理解を深める。地域とのつながりを深めるということです。高めるということは調査員としての資質を高める、調査の専門性を高めることです。広めるについては、視野を広める、成果を地域社会に広めるということです。

本年度業務との関係ではこのような問題として想定をしています。スライドによる表示にしたがって、説明を進めます。１点目は、精神文化保全対策調査と地域文化保全対策普及調査に係ることです。たとえば、アイヌ民族の伝統的な精神文化をどのようなものと理解し、今日的環境の

もとでどのように継承し普及しようとするのか。これは自明なことのようで、必ずしもそうではないように思います。伝統文化についての解釈や判断、そして選択、決断が問われます。伝統的精神文化は多神教的な信仰観・ 宗教観だとされ、とりわけ自然との「共生」を重視する哲学として注目されてきた。それを、これからも、自然との「共生」を基調とする精神文化、自・他の多様性を積極的に認容する精神文化、そのような文化として育んでいくのか。おそらく、伝統を踏まえて、方向性としてはそういう選択がなされていくようには思っていますが。解釈・判断・選択・決断というのは、そういうことを意図しています。また、たとえば、とてもデリケートな情報の「公開」について、そのあり方を定め、決めるのはどこか。これも重要な集団としての意思決定です。アイヌの人々を主体とし、その意向を尊重する地域的な、または民族的な意思決定のしくみの一つとして、検討会を中心とする当事業の体制がある、そういうシステムの一つなのだと位置づけています。今後、精神文化分野の調査検討が重要さを増す理由として考えられることを次のスライドにまとめました。第１に、精神文化はどの分野にも関わり、背景となり、要ともなるので、他分野との関係で常に備えが必要だということ。第２に、把握して尊重すべき「意向」が繊細で、多岐にわたるので、状況に応じ臨機応変に個別的な対応を探る必要があること。第３に、保全対策実施の過程が流動性の高い動きとなるので、柔軟な対応を可能とする情報・体制を常備すべきこと。第４に、前のスライドで提起したように検討内容がますます深まっていくことです。ですから、精神文化に関するデータはかなり押さえたけれども、今年度以降このような課題を深めていく作業が比重を増していくと考えています。

２点目については生活文化に係ることです。９月に調査室を中心に宿主別付近でサケ・ます類の特別採捕を行う予定をしています。その後１０月にはイオル事業のアイヌ文化体験交流の事業として連携協力して、広く呼びかけて知っていただく流れがいいのではないかと考えています。スライドで紹介しているのは、以前アイヌ文化振興クラスター事業ということで特別採捕、漁組の協力を頂きながら特別に採捕させて頂いた時の写真ですが、大人も盛り上がる。この様に鮭を見ると盛り上がってとてもいい学習になり、地域ぐるみの文化イベント、活性化にも役立つとてもいい素材と言えます。こういった取り組みをしていく中で、もう１つ生活文化の大事な取り組みとして川洲畑の現地調査、先程の説明にもありました。継続していく中で川洲畑、畑づくりだけではない、農法の事だけではない、周辺の自然環境、文化環境、生活文化に関する情報、知見が豊かになっていきます。私達調査する側も、協力して頂く方も段々に記憶が蘇って、従来の研究方法より、１回だけ調査機関が来てテープ等に収め、発表していくというやり方ではない、深い理解に繋がっていっていると思います。地域の若い方々と年輩の方々とがともに取り組み、そのまま記憶の伝承、継承といったことに繋がるとても良い試みだと思っています。そういった取り組みを更に深めていくということが大切だと思います。

３つ目は、生物の生存環境の分野、有用植物移植試験の分野に係ることです。ここでは課題が具体的な保全対策に基づき、詳細な整備計画を策定する。５の分野では試験地の整備作業を行うと共に、次年度以降のモニタリングの計画案をとりまとめることが想定されています。中長期的な整備計画を立てて、作業を進めていくことが求められている段階になっています。辻井先生にもご指導を頂きながら、ワークショップなどによって取り組み、作り上げていく作業を行っています。こういった作業は更に広めて、このスライドの支部からの要望イメージですが、そういったことも考慮して一緒に取り組んでいくことが課題になってきているのではないかと理解しています。同じような事をイオル事業など他の事業でもやっているということが出てくると思います。

これについては森林環境の回復、保全、文化資源の確保には多様な方策を想定していくのが良いと思います。調整し、似ているからまとめるということではなく、それぞれの拡充に努めながら連携を図っていくという基本的な戦略をとっていくのがいいのではないかと思っています。このようなことを念頭に作業を進めて計画を立ち上げていきたいと思っていますので、宜しくお願いいたします。

座　長：どうもありがとうございました。調査室の方々によって詳細な説明がありました。これについてご質問、ご意見、ご感想、いかがでしょうか。

●：資料－２の中で動物、先程辻井先生がおっしゃっていた文化的景観の地形、アイヌ語データベースとか、この２項目が今年度は調査を実施しないとあります。それは今まで集めたデータが完成されたものだと捉えているのか、それとも今まで集めたデータを今年度は検討してその結果を踏まえてまだ行っていくことになるのか。

作業主任：アイヌ語地名、伝説地、伝承地の閲覧のデータベースですが、情報については一定の基礎となる資料は出来たと思います。その後更に沙流川流域全体にしていくということになると、かなりの作業になる。額平川流域にかかった作業量を見まして。全く手を掛けないということではなく、基礎が出来たものにメンテナンスというか、気がついたところは補充していく作業を行ってはいます。それを使って学校で活用して学習するということで、そういうやり取りをしています。一方で昨年度はイオル事業との連携で、利用しやすいライブラリーの形で整備する試みも行いました。今年度以降もチャンスがあれば沙流川流域全体のしっかりしたデータベースを作りたいと思います。

●：膨大な資料で大変だったと思います。いいものができていると思います。どういうふうに普及啓発していくかが重要だと思います。私達は関わっているので大体こんなことをやっていると分かるが、何も分からない人に伝えるために、情報センターができたのでパネル展とかで啓発するようなことは考えていないのか。

作業主任：私達が関わる業務の中では今年度、３つ重点的に考えていまして、１つ目は協会支部との関係、アイヌ文化について一番深い関わりがあります。２つ目は、地域との関係は二風谷地域が文化活動の中心的な場ですからより良い関係の構築を計りたいと考えています。３つ目は、学校との関係で、昨年から中学校での授業も行いました。

情報センターについては、それ自体を大きな情報の媒体だと考え、使っていくのが良いと思います。パネル点の様なこともありだと思います。新しい機器も充実しているので、固定的なパネルよりは映像を使っての啓発というのも大事かなと思います。更に重要なのは求めがあれば、ある程度の情報がきちんとあるということをお知らせすることだと思います。博物館、歴史館、資料館等があり、文化のインフラが平取は整ってきているので、その利用の仕方をアナウンスし、促すということが基本的に大事かなと思います。

●：私共民族の立場も勿論ですが、北海道の歴史文化を考える時に、先程からアイヌの地名等の事が出ていますが、北海道は幕末から明治維新にかけて本州から多くの和人の方が移住してきた。彼らは自分の故郷を偲ぶ思いで、故郷の地名を持ち込んで、これが自分達の地名だとした。しかしそれが固定化すれば、先住がアイヌであることがぼやけてしまう。各地から来た人が名前を持ち込んだ事を悪いとか良いという事を論じているわけではなく、アイヌの地名は現実にあるものならば、それは正確に記述して和人もアイヌも含めた地域の人がそれを正しく理解することが大事だと思う。文化を尊重し理解するうえで大切なことだと思います。現状の調査はどのような段階にきているのか。アイヌの地名をちゃんとすると同時に、各地から来られた人がつけた名前をどういうふうに扱うかは大事な問題です。これからも理解を深めていかなければならない時期だと思うので、現状の調査段階と今後の展開を伺いたいと思います。

作業主任：大変難しい質問なので、恐縮ですが○○さんが関わってくださったスライドの資料を基に答えさせていただきます。協力いただいた紫雲古津の川洲畑試験地ですが、それ以前からもお話を伺っていて、鹿の追い落としが行われた岩は、小さい頃おばあさんと一緒に作業していた時に大音響で崩れたという話なども聞かせて頂いています。川辺の様子については、今の様子からは信じられないかなり高い木があり登ると海が見えたということも伺っています。私達は想像が十分に出来ず、指摘を受けて直していくという作業を続けることで、イメージが私達なりには、だんだん出来てきたと思っています。自然の環境のことを言いますと、湿地が多かったとか、一緒に作業を行うことで段々と分かってきたというのが私たちの理解です。紫雲古津の古地図を見ると、明治期・大正期は川がはっきりしないくらいの湿地が広がっています。それがサル（湿地）ということで、地名になったのはそこからくるということで、段々に実感して、○○さんとのやり取りで分かってきました。そういった湿地が広がっている一方で、入植者の方々が両岸に河岸段丘があって山のようになっているのが分からなかった。それぐらい密林だったということも伺いました。昔のことでも大切な情報を含んでいるが、まだまだ明らかにしなければならないことがあると実感しています。取り組みの状況というのはそういうところです。そのような方法で調査を更に深めた時には、他の方からも、もっと多くの情報が得られると思っています。○○さんのような年代の方々であればアイヌ民族ではなくても地名や踊りを大事にしたいと思っている方も多いはずです。そういう意味ではまだまだ調べる事も多く、若い人たちには伝えていきたいと思っておられると思いますので、そういう取り組みをこれからもしていきたいと思います。

●：懇切丁寧な解説でありがたいが、私が申し上げたいのは、地名に関することは大事だということは地域の皆さんが本当に文化を共有したい、理解したいという思いで、先程申し上げたように、各地からこられた人が自分達の故郷を偲んで地名をつけたかもしれない。それを間違いというのではなく、そういうことをきちんと理解してもらうということ。以前から住んでいる民族にすると、デリケートな問題です。そのことを皆さんに理解の浸透を図るようにお願いをしたいと思います。

座　長：ありがとうございました。今の地名のことで、例えば○○さんが郷土史をまとめたときにも出てきましたか。大変だったと思いますが。

●：ついこの間、今、座長の方からありました振内の郷土史が完成しまして、特に歴史的な背景を元にアイヌ文化と係わりが強い、それを継承してきた人達も段々お亡くなりになって、生き証人という方が少ない。その中で調べてきたものです。先程から様々なデータベースを作りながら、特にアイヌ文化の流れ、関わり方については、公開ということで一般の町民の方も参加されて、３月にアイヌ文化情報センターが二風谷に出来て、様々な施設がイオル事業の推進と共に構築されつつあります。私はこういった資料とか振内の郷土史、アイヌ文化の関わり方も含めて、町民や町内外に発信していく、資料が手元にあって詳細に調査したすごいものが出来上がってきているという感触があっても、それがこの会合の場で終わらない。特に本州の方からも移住している方が二風谷にもいますので、こういった資料を内外に発信していく方法がこれからは重要になってくると思います。二風谷を通りながら振内を回ってきた時に、様々な外国の方の足跡を辿って、記録にあるのは大きなコタンがあって、振内の前進はオコツナイという所ですが、そういう所にたどり着くのが、時間的距離的なことから二風谷のことをさしている。そういったことを含めて勉強になった。しまっておくと良くない。発信する方法、アイヌ文化の情報センター、博物館などを含めた中で生かしていく方法はどうあるべきか、これから皆さんで考えて、このままでは勿体無いです。

●：只今の貴重な調査結果の内容に対する発信のあり方を早急に考えたいと思います。それに関連して１点。質、量ともに、この調査のように、アイヌ文化に対する調査をとりまとめたというのは他に例がないと思いますし、アイヌ民族自身が中心になって行ったというのは、大変重要な調査結果であると思います。地域に還元することは重要ですが、世界に発信するということは、今求められていることだと思います。そのことについては最近の動きを紹介したいと思います。調査室の方とは話を始めていますが、カナダの大学において、そこが中心になって世界各国の先住民族が研究を行っている研究機関と共同研究のネットワーク作っています。研究の成果を世界で共有し、発信しあうという活動になっている。今年度からアイヌ文化研究センターもネットワークに入ることになりました。そこで共同研究として平取における調査結果を海外に発信する第１号にしたいと考えています。日本語では発信できませんので、英訳して世界へ発信するということになります。それについても財源を含めて大学と協議しています。膨大な資料全てを英訳するということは厳しい気もしますが、エッセンスの部分については、アイヌ民族文化のすばらしさを世界へ発信するという方向で進めていきたいと考えています。具体的にどういうタイミングで実現出来るかについては、調査室とも協議しながら、関係の皆さんともお知らせしながら進めていきたいと考えています。

座　長：ありがとうございました。極めて必要なことだと思います。

●：参考資料－２の７頁を見て頂きたい。私はアイヌ語をやっている関係で、アイヌ語表記について「ﾀﾝ　ﾊﾟ　ｱﾅｸﾈ　ｼﾘﾋﾟﾘｶ」と書いてあるが、ここの表記は全て半角で表記されている。その右に書いてる「ハルコロ」の「ロ」の字の方は全角になっているので、統一して表記された方がいいと思います。

座　長：大変適切なご指摘ありがとうございました。他にありますか。
事務局：事務局の方から１点ご説明させて頂きます。今日お配りした資料－２の３頁、何人かの委員の方から普及啓発、情報発信、重要な点についてご指摘頂きました。調査室の調査の中で５番の保全対策からアイヌ文化普及への対応ということで、屋内、屋外展示に関する検討、普及啓発に関する検討として、２２年度も取り組むことになっています。実際にはこれまでやってきたことについては、プライバシーに配慮しながらホームページにアップし、ご指摘にあったようにそれだけでは分からないところがありますので、２１年度からとりまとめて分かりやすく、成果を理解してもらうという取り組みを進めてきています。２２年度に一定の形にして、それが最終ということではないが、これまでの成果という見える形で分かりやすくこれまでの調査内容を理解できるものを作って行きたいと思っています。事務局、調査室の方もそういったモチベーションを持ちながら取り組んでいくということを報告させて頂きます。内容については先程表記の話もして頂きました。そういったことに注意し、勉強しなければならないことがあると思いますので、必要に応じて委員の方々にご相談しながら、分かりやすい形にしていきたいと思いますので、今後ともご指導をお願いいたします。

座　長：ありがとうございました。調査班の皆さんありがとうございました。
　これまでの様々な経緯、深める・高める・広めるという決意表明、それが上手く進むように期待して御礼といたしたいと思います。今日頂いたご意見を反映した上で進めることにしたいと思います。議題は全て終了しましたので、事務局へお返しします。

６．その他

事務局：辻井座長ありがとうございました。事務局といたしましても本日のご意見を踏まえまして、ご指導頂きながら、ご相談させて頂きながら進めてまいりたいと考えています。本日の検討会の議事については、事務局でとりまとめを行い、改めて委員の皆様に確認させて頂きたいと思いますので宜しくお願いします。

７．閉　会

事務局：それではこれをもちまして第１１回検討会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。